

# 読んでみたい この一冊

大阪産業経済リサーチ & デザインセンター  
主任研究員 福井 紳也

## 『FACTFULNESS (ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、 データを基に世界を正しく見る習慣』

ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド 著  
上杉 周作、関 美和 翻訳 日経 BP 社 1,980 円 (税込)



この本は13問のクイズで始まります。貧困、所得水準、女性の教育、平均寿命、人口予測・人口分布、ワクチン接種率、自然災害の影響などの、世界の事実に関する知識を問うものです。一例をあげますと「現在、低所得国に暮らす女子の何割が、初等教育を終了するでしょう？」といったものです。私もトライしましたが、恥ずかしながら、とてもシンプルな13問の質問の中で2問しか正解できませんでした。

筆頭著者のハンス・ロスリング氏は、医師であり、15人の大学関係者がノーベル賞を受賞したというスウェーデンのウプサラ大学で博士号を取得した公衆衛生学者です。これまで世界中の多くの人に同様のクイズをしてきましたが、平均正答率はわずか7%だと言います。「優秀な人たちでさえ、世界のことを何も知らない」と、とあるノーベル賞受賞者でさえとんでもなく低い点数をとったそうです。

全編を通して、最初の13の質問に答えていく形で様々なファクト（事実）を明らかにする話しが進められています。中でも「減り続けている16の悪いこと」と「増え続けている16のよいこと」のグラフでは、長い年月をかけて世界は良くなっていることを知ることができます。

「悪いニュースのほうが広まりやすい」といった報道の偏りは、現在大きな問題となっている新型コロナウイルス感染症においても日々感じるところだと思えます。悪いニュースをセンセーショナルに報道すると、人々は、世界が今より悪くなっていると感じてしまうと、筆者は説きます。数字をどのように捉えるかによって見えてくるものは違ってきますし、人々の思い込みがいかにか事実を捻じ曲げているか、ということが本書を通して分かります。

本書は11の章で構成され、いずれも人々の思い込みに対して、数字や図表、写真などを用いて応

えています。例えば、世界の所得レベルをレベル1（最も貧しい）～レベル4（最も豊か）に分類し、写真入りの解説によって、これまでの思い込みとは異なる世界の貧困に関するファクトを知ることができるのは興味深い点です。

本書の終盤では、心配すべき5つのグローバルなリスクの一つとして「感染症の世界的な流行」も挙げられています。まさに現在、私たちは日々、新型コロナウイルス感染症に関する「データ」を目にしており、多くの人が「データ」に大きな関心を寄せています。私たちはいかに正しく「データ」を読み取るか、大切な局面に面していると言えます。本書を通してより正しくファクトを把握する力を養うヒントが得られると考えます。

### 【著者略歴】

ハンス・ロスリング

1948年スウェーデン生まれ。ウプサラ大学で統計学と医学を学び、聖ヨハネ医科大学で公衆衛生を学んだあと、1976年に医師に。1986年にウプサラ大学から博士号を取得。1997年からカロリンスカ医科大学でグローバルヘルスの教授を務めた。10回のTEDトークは、延べ3500万回も再生されている。2012年にはタイム誌の世界で最も影響力の大きな100人のひとりになった。2017年に他界。

オーラ・ロスリング

1975年スウェーデン生まれ。ハンスの息子。ハンスが行うTEDトークや講演の資料をつくってきた。

アンナ・ロスリング・ロンランド

1975年スウェーデン生まれ。オーラの妻。オーラと共にTEDトークやその他の講演を監修してきた。